

平成 23 年 度

後継者育成支援事業実施報告書

平成 24 年 3 月

(財) 鳥取県生活衛生営業指導センター

目 次

項 目	ページ
1 背景・目的	1
2 事業実施計画	1
3 事業実施状況	2
4 参加した生徒へのアンケート調査結果	9
5 本年度事業の評価	10
6 次年度に向けた改善点	11

1 背景・目的

生衛業界は家族経営を中心とする小規模な経営形態が多数を占めており、平成18年度に実施した鳥取県の生衛組合に対する意識調査の結果、約6割が高齢化及び後継者難を喫緊の課題として挙げている。

本県の理容業は施設数、理容師数ともに長期的に減少基調にあり、このまま推移すると理容業のサービスを楽しむ地域が発生することが懸念される状況となっている。

このため、本年度は過去4年にわたるモデル事業の結果を踏まえ、高校生の生衛業に対する職業観の向上及び生衛業への就業促進について、実効性確保の観点から後継者育成に資することを目的とする。

2 事業実施計画

1) 後継者育成企画評価協議会の設置

当指導センターが鳥取県理容業生活衛生同業組合と連携して実施する後継者育成支援事業の実施計画書やプログラムを協議し、モデル事業を評価するため以下の構成による協議会を平成23年8月22日に設置し、事業計画の審議及び評価を実施することとした。

【後継者育成企画評価協議会の構成】

教育・学校関係者

鳥取県立鳥取緑風高等学校教諭

鳥取県理容美容高等専修学校校長

生衛業界関係者

鳥取県理容生活衛生同業組合 総務部長

鳥取県理容生活衛生同業組合 組織副部長

鳥取県理容生活衛生同業組合 監事、鳥取支部教育部長

鳥取県理容生活衛生同業組合 境港市部副支部長

行政関係者

鳥取県企画部青少年・文教課 企画員

鳥取県商工労働部雇用人材総室労働政策室 主事

鳥取県教育委員会高等学校課 指導主事

鳥取県生活衛生営業指導センター

理事長

計10名

2) 鳥取県理容生活衛生同業組合によるモデル事業の実施計画

平成22年度に指導センターが実施した県内高等学校のアンケート結果に基づき、同業組合が学校側と協議の上、以下の4校で事業を実施することとした。

【東部地区】

日時：平成23年11月22日

場所：鳥取市湖山町南3丁目848

鳥取県立鳥取緑風高等学校

対象：1年生 94名（夜間含む）

【中部地区】

日 時 :平成23年 9月 5日
場 所 :倉吉市福庭町1丁目180
 学校法人松柏学園 倉吉北高等学校
対 象 : 1年生140名

【西部地区米子市】

日 時 :平成23年6月15日
場 所 :米子市二本木316番地1
 学校法人米子永島学園米子松陰高等学校
対 象 : 3年生13名

【西部地区境港市】

日 時 :平成24年 1月23日
場 所 :境港市竹内町925番地
 鳥取県立境港総合技術高等学校
対 象 : 20名(学年未定)

3 事業実施状況

1) 後継者育成支援企画評価協議会

【第1回協議会】

日 時 :平成23年8月22日 13時30分から
場 所 :鳥取市末広温泉町556 白兔会館 せきれいの間
議 題

- ①後継者育成支援企画評価協議会設置要綱について
- ②平成23年度後継者育成支援事業の計画について
- ③事業の目標設定と評価方法について
- ④その他

【第2回連絡協議会】

日 時 :平成24年 2月 6日 13時30分から
場 所 :鳥取市末広温町556 白兔会館 せきれいの間
議 題

- ① 平成23年度事業の結果について
- ② 事業実施結果の評価と課題の整理
- ③ その他

2) 鳥取県理容生活衛生同業組合各支部によるモデル事業の実施概要

【東部地区】

日 時 :平成23年11月22日
場 所 :鳥取市湖山町南3丁目848 鳥取県立鳥取緑風高等学校
対 象 : 1年生 61名、夜間1年生12名 合計73名

鳥取県立鳥取緑風高等学校理容体験学習プログラム（80分授業）

—会場に入場時に、生徒・先生全員が手指消毒—

12:50 授業スタート

20分 未来ある理容業について(メッセージ)

緑風学校側代表挨拶

理容界ニュース 映像放映

理容組合鳥取支部長挨拶

25分 デモンストレーション(カット、セット、エステシェーブ、ネイル等)

45分 体験実習(モデルウィッグを使用しカット体験)

65分 アンケート記入及び感想を聞く。

80分 終了





【中部地区】

日 時 :平成23年 9月 5日

場 所 :倉吉市福庭町1丁目180

学校法人松柏学園 倉吉北高等学校

対 象 :1年生140名

学校法人松柏学園 倉吉北高等学校理容体験学習授業プログラム (90分授業)

13時30分

—学校側代表挨拶—

組合代表挨拶

5分 倉北ダイジェスト放映、青年部パフォーマンス (卒業生組合員が先生カット)

- 7分 スピーチ(卒業生組合員代表)
- 10分 デモンストレーション(カット、セット、シェーブ、エクステ、ネイル等)
- 40分 体験学習(カット、シェーブ)
- 80分 バリアートコンテスト投票結果授賞式
- 82分 生徒代表謝辞(1年代表)
- 85分 閉会の言葉(県広報部長)
- 90分 閉会





【西部地区米子市】

日 時 :平成23年6月15日

場 所 :米子市二本木3 1 6 番地1

学校法人米子永島学園米子松陰高等学校

対 象 : 1年生1名、2年生6名、3年生6名 合計13名

学校法人永島学園 米子松陰高等学校理容体験学習授業プログラム (80分授業)

11時 開始

— 課担当教諭の挨拶 —

- 5分 理容業、専門学校についての説明
- 10分 デモンストレーション(ウィッグを使用しカット、セット)
- 25分 体験学習(ウィッグを使用しカット、シェーブ)
- 70分 アンケート及び質問の受付
- 80分 終了



【西部地区境港市】

日 時 :平成24年 1月23日

場 所 :境港市竹内町9 2 5 番地

鳥取県立境港総合技術高等学校

対 象 : 3 年生2名

鳥取県立境港総合技術高等学校理容体験学習授業プログラム (70分授業)

16時 開会 挨拶

趣旨説明 理容師側挨拶と自己紹介

理容業界の基本的概念～理容師になるには

10分 実技体験

全員手指消毒後 1科目 15分とし生徒はローテーション移動

25分 カット技術 モデルウィッグを使い髪の毛を切る。

40分 アイロン操作 モデルウィッグを使いアイロンで髪の毛を矯正する。

55分 シェービング技術 風船を使い、刃のついた剃刀で泡を取る。

70分 終了





4 参加した生徒へのアンケート調査結果

今回の出前体験事業の効果を把握し次回に向けて事業を改善するため、4高等学校の参加の生徒さんを対象にアンケートを実施した。

1) 結果の概要

アンケートの回答状況は以下のとおりであった。

- ① 対象者数 228名
 うち1年生：202名
 2年生： 6名
 3年生： 8名
 夜間1年生： 12名
- ② 回収率 93.4%

学 校 名	事業継続年数	参 加 生徒数	アンケート 回収数	回答内容		
				理容師 になる	理容師 に興味	その他
鳥取県立鳥取緑風高等学校	5年目	73	73	0	41	32
学校法人松柏学園倉吉北高等学校	5年目	140	125	3	92	30
学校法人米子永島学園米子松蔭高等学校	5年目	13	13	1	3	9
鳥取県立境港総合技術高等学校	4年目	2	2	0	0	2
合 計		228	213	4	136	73

※事業継続年数とは、鳥取県理容生活衛生同業組合が実施する出前体験事業に継続参加した年数を言う。

- ③ 回答内容の概要
- ・ 理容師になる 4名(1.9%)
 - ・ 理容師に興味を持った 136名(63.8%)
 - ・ その他 73名(34.3%)

2) これまでの理容へのイメージ

- ・ 髪を切る仕事。
- ・ 理容を知ったのは初めてで、美容との違いが判りません。
- ・ 以前から気になっていた。とてもいい仕事だと思う。
- ・ おじいさん、おばあさんが行くイメージ。
- ・ これまでの理容のイメージは、ただ客に言われた通りに髪を切ったりするのだと思った。
- ・ ボウズ、坊ちゃん刈り。
- ・ シャンプーをして髪を切ったり、ひげを剃ったり床屋のイメージ。
- ・ 美容のイメージが強いので理容はメジャーでないと思っていた。
- ・ ただ髪を短くして整えるだけかと思っていた。
- ・ 美容と比べてへボイ。
- ・ 美容と理容の違いが判らなかった。
- ・ 理容師の人は、髪を切りながら、世間話をしていて器用な人だと思っていた。
- ・ おじさん、男性、だけが行くところだと思った。
- ・ 大変そう、難しそう。

- ・簡単だと思っていました。

3) 今回の体験学習に参加した感想

- ・みているほうはたのしかったが、いざしてみると意外に難しかった。
- ・実際にカットしてみましたが、思った以上に難しかった。
- ・髪の毛の切り方がいろいろあり、修業していかないととても大変だと思いました。
- ・体験学習をしてすごくいい体験をしたと。いろいろな技術があるので実感しました。
- ・生で切る所を見たり、エステをしている所を見たり質問出来て楽しかったです。実際に切ってみて、大変な事だと思いました。
- ・ハサミを持ってみて怖かった。
- ・もっと興味がわいたので、絶対専門学校に行って仕事を始めたいなあとと思いました。
- ・本当に理容師はすてきな一と思った。
- ・理容に興味を持ちました。
- ・髪を切るだけでも意外に難しかったけど、よい体験でした。
- ・貴重な体験ができたこれからの良い勉強になった。
- ・風船シェービングが怖くてなかなかそれなかった。
- ・理容がどういう仕事か判ってよかった。
- ・色々な髪型があつてすごかった。(ウィッグ、編込み、エクステ)
- ・イメージが全部変わった。いい意味でよくなった。
- ・髪を切るのは楽しいと思った。
- ・理容の仕事は、技術は勿論礼儀や接客が大切だと思いました。仕事の大変さややりがいや学べてよかったです。
- ・夢に近づけた。
- ・髪を切ったりするのは難しいと思うけど、楽しいと思いました。又、してみたいです。
- ・すき髪で髪をすくのが難しかったけど、楽しかったです。
- ・実際に私になりたいと思っているのは美容師ですが、今日の理容体験でとてもいい勉強になりました。やっぱり楽しいです。でも。髭を剃るのは苦手です。

5 本年度事業の評価

平成 23 年 8 月 22 日の第 1 回企画評価委員会で決定した評価方法及び目標に基づき、本年度事業の評価を行った。

1) 出前授業の前後で職業観が変化したか(理容技術の奥深さが理解されたか)

目標：受講者の60%以上に職業観の変化

本年度事業対象校 4 校。受講者 228 名に対し実施したアンケート調査の結果は回答者 213 名(回答率 93.4%)。

理容師になると回答した者 4 名(倉吉北高 3、米子松陰高校 1)、理容師に興味を持った 136 名、その他 73 名となった。

理容師になる又は興味を持った者の合計は 140 名(61.4%)であり、本事業の前後に理容への職業観の変化について感想を聞いた結果を見る限り従来抱えてきた理容へのイメージは払拭され

ていることが確認できることから、上記目標は達成されたと判断できる。

2) 卒業後の進路選択に影響がみられるか

目標：理容科の進路選択者5名以上

本年度事業対象校4校の進路状況は下表のとおりであり、現在理容科進学が決定した者は1名(倉吉北高校)で、他の高校では理容科への進路選択者がなく、当初目標として掲げた5名は達成できなかった。

平成23年度理容科への進学者数

学校名	専修学校(理容科)進学者数
鳥取県立鳥取緑風高等学校	0(0)
学校法人松柏学園倉吉北高等学校	1(4)
学校法人米子永島学園米子松蔭高等学校	0(3)
鳥取県立境港総合技術高等学校	0(2)
合計	1(9)

※()内の数字は、美容科への進学者数

上記の結果から、理容の体験授業を受講した者のうち、理容科を選択した者が1名であったのに対し、美容科を選択した者が9名となっており、結果的に美容業の後継者を育成した形となった。

この原因についてアンケート票を追跡してみると、今回の受講者に3年生を対象とした学校では、受講前の段階から既に美容師になると回答している者が多く(8名)みられ、受講後美容師への志向が決定的となっているなど対象者の選定に課題があると考えられる。

一般的に、生衛業の中でも美容業はその華やかさから増加の傾向にあるが、理容業は地味なイメージが強く、この点が若い高校生の進路選択に影響を及ぼしていることも想像できる。

現に、平成21年度に行った鳥取緑風高校モデル事業の結果では、出前授業受講後に理容師になると回答した者が2名いたが、本年の3年生には理容科に進んだ者はいなかった。2年を経過して最終の進路選択まで動機づけが維持されていないことが推測できる。

受講後の反応でも、理容と美容の違いが判らないと回答している点にも注意が必要と考えられ、次年度以降、事業の実施方法を見直す必要があると史料される。

6 次年度に向けた改善点

本事業の目的は理容業の後継者を育成することにあるが、本年度事業の結果は、職業観の改善・向上が図られているものの、必ずしも進路選択につながっていないという結果となった。

この結果を踏まえて企画評価委員会で議論し、次年度以降の事業計画を見直すべき点を次のとおり整理した。

① 事業の対象学年を1~2年までとし、進路決定している3年生は対象としない。

高校生の進路は3年生になるとほぼ決定しており、1日の体験学習でこれが変化する可能性はほとんどないと考えられることから、効果的に後継者を確保するためには受講者を1~2年生とする。

② プログラムに理容独自技術（シェービング）を加える。

理容と美容の違いが判然としないという生徒の意見はアンケート結果でも散見されるが、進路選択に当たっては大きなウェイトを占める可能性があるため、理容独自の技術についての理解を促進するため、シェービングをプログラムに加える。

③ 事業継続校については、歴年のアンケート結果を基に可能な限り志望者をフォローアップする。

1～2年生を対象として事業実施しても3年生の進路決定

本事業を継続して受け入れている高等学校については、実施年毎に事業効果測定のためのアンケートにより理容業への志望者が把握できることから、必要に応じてこれら志望者に対してインターンシップで受け入れる等フォローアップの実施を検討する。

④ 学校側とは上記事項を踏まえ3月中に計画を調整する。

学校では年間計画が3月中に策定される。その後に事業受け入れ要請をしても事業を受け入れる学校側の日程等調整や対象生徒の決定に支障が生ずるため、必ず3月中に必要な協議・調整をする。

⑤ 対象校の進路担当教諭には、実績報告に間に合うよう理容科への進学者数把握を依頼する。

本事業を効果的に実施するためには、カウンターパートである受け入れ校進路指導担当教諭との意思疎通は極めて重要であり、結果の把握に至るまでよく理解してもらえよう依頼しておく必要がある。

従来実施してきたモデル事業と異なり複数の高等学校で事業が同時進行することとなるため、理容生活衛生同業組合の現場責任者と当生活衛生営業指導センターとの会議を新設し効果的な事業となるよう連携を強化する。